



登米地域の稻作通信 第9号 (総括号)

だて正夢

令和7年12月24日発行

宮城県米づくり推進登米地方本部

宮城県登米農業改良普及センター

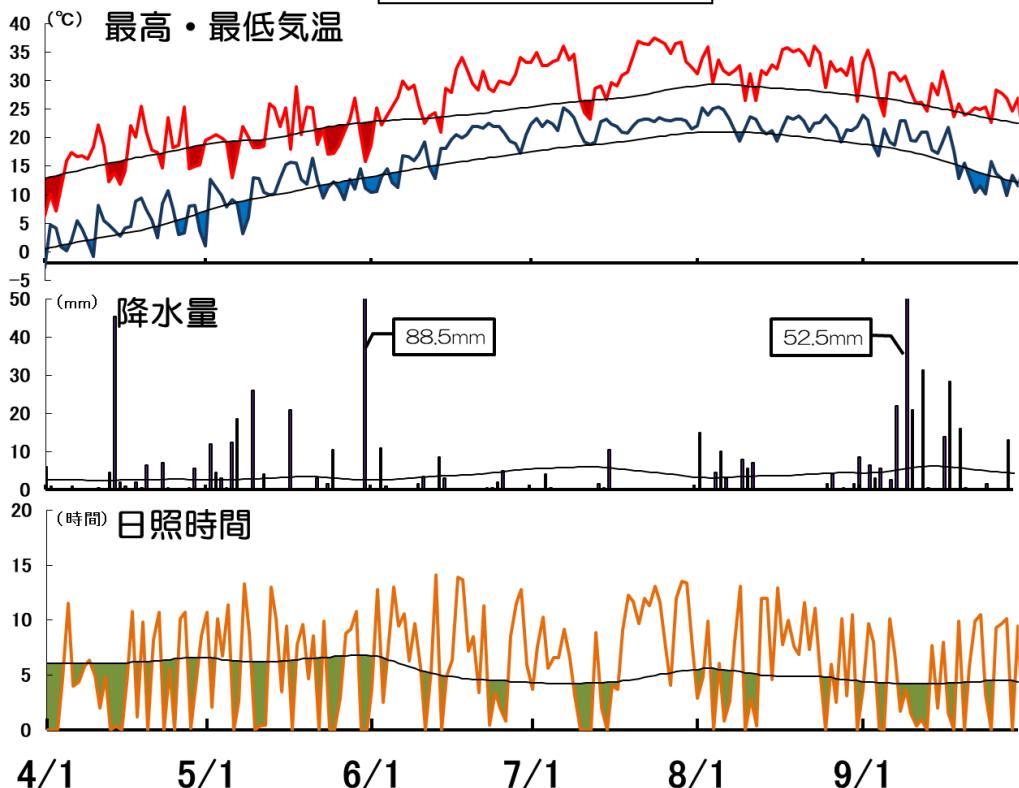
Tel : 0220-22-6127

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>



1 気象経過

観測地点：米山アメダス



4月の最高気温は平年を上回る日と下回る日が周期的にあり、寒暖差の大きい月となりました。降水量は4月中旬にまとまった雨があり、平年比251%と多雨となりました。日照時間は平年比72%と少なくなりました。

5月中旬の平均気温は高くなりましたが、上旬、下旬の平均気温は平年より低い日が続きました。5月上旬は雨の日が続き、降水量は平年比281%と4月と同様に多雨となりました。5月の日照時間は平年比87%と平年を下回りました。

(6月・7月)

6月はひと月を通して気温の高い日が続き、最高気温が30°Cを超える日もありました。降水量は少なく、平年比33%となりました。日照時間は平年比139%と平年を上回りました。東北南部の梅雨入りは平年より1日早い6月14日頃でした。

7月は6月同様、気温の高い日が続き平均気温は平年より3.9°C高く推移しました。降水量は降雨のない日が続き、平年比11%と非常に雨の少ない月となりました。日照時間は平年比139%と平年を上回りました。東北南部の梅雨明けは平年より6日早い7月18日頃でした。

(8月・9月)

8月は気温の高い日が続き、平均気温は平年より3.7°C高くなりました。8月上旬の降水量は平年を上回りましたが、その後は平年を下回り、8月全体の降水量は平年比52%となりました。

9月の平均気温は平年より2.5°C高く推移しました。上旬、中旬は降雨が続き、9月全体の降水量は平年比144%となりました。

2 気象概況と管内の生育概況

(1) 育苗期

- 管内の播種盛期（50%終了）は4月13日（平年より1日遅い）でした。
- 低温の影響による出芽不良や高温の影響による徒長苗が見られました。
- 一部でフザリウム属菌、ピシウム属菌などによる苗立枯病が見られました。

(2) 田植期～活着期

- 管内の田植盛期（50%出穂）は5月12日（平年より1日早い）でした。
- 5月下旬に気温の低い日が数日続きましたが、その後は天候に恵まれたため、田植え後の活着は概ね順調に進みました。

(3) 分げつ期～出穂期

- 管内の出穂期（50%終了）は7月31日（平年より1日早い）でした。
- 7月は気温が平年よりも高く推移し、出穂は平年よりも早まりました。

【管内の出穂状況】

地帯区分	出穂始期		出穂期		穂揃期	
	令和7年	平年	令和7年	平年	令和7年	平年
北部平坦	7月26日 (-2)	7月28日	7月31日 (-1)	8月1日	8月8日 (+1)	8月7日
三陸沿岸	7月27日 (-2)	7月29日	8月1日 (-1)	8月2日	8月8日 (±0)	8月8日
管内	7月26日 (-2)	7月28日	7月31日 (-1)	8月1日	8月8日 (+1)	8月8日

※出穂始期、出穂期、穂揃期は、それぞれ出穂期（50%以上が出穂）に達したほ場の面積が5%、50%、95%に達した日。

※平年値は、過去5か年（令和2年～令和6年）の平均値。

(4) 登熟期～収穫期

- 登熟期～収穫期にかけても30°Cを超える日が続き、最高気温、最低気温ともに平年を大きく上回り推移しました。
- 管内の刈取盛期（50%終了）は9月28日（平年より1日早い）、刈取終期（95%終了）は10月13日（平年より1日早い）となりました。
- 8月下旬からは倒伏したほ場が見られ、降雨と高温が重なり、ササニシキ等では穂発芽が散見されました。

【管内の刈取状況】

地帯区分	刈取始期		刈取盛期		刈取終期	
	令和7年	平年	令和7年	平年	令和7年	平年
北部平坦	9月22日 (+2)	9月20日	9月28日 (-1)	9月29日	10月13日 (-1)	10月14日
三陸沿岸	9月22日 (+1)	9月21日	9月27日 (-3)	9月30日	10月8日 (-4)	10月12日
管内	9月22日 (+2)	9月20日	9月28日 (-1)	9月29日	10月13日 (-1)	10月14日

※刈取始期、刈取盛期、刈取終期は、刈取実施面積が5%、50%、95%に達した日。

※平年値は、過去5か年（令和2年～令和6年）の平均値。

3 管内の病害虫の発生状況(県病害虫防除所巡回調査結果による)

(1) ばか苗病

- ・5月中旬の育苗時の巡回調査では、発病箱率は0.6%でした。（県平均3.1%）
- ・6月下旬の巡回調査では、発病株率は0.1%でした。（県平均0.0%）

(2) 紋枯病

- ・9月上旬の巡回調査では、発病株率は35.4%、発病度は15.9でした（県平均：発病株率31.9%、発病度10.1）。
平年（発病株率17.0%、発病度5.3%）より発生は多くなりました。

(3) いもち病

1) 葉いもち

- ・6月中旬の残苗巡回調査では、残苗放置率は23.7%、残苗発病率は0%でした。（県平均残苗放置率11.4%、残苗発病率2.1%）
- ・7月下旬の巡回調査では、発病株率は0%、発病度は0%でした。（県平均発病株率0.1%、発病度0.04%、上位1～2葉病斑数0.0、上位1～3葉病斑数0.0）

2) 穂いもち

- ・9月上旬の巡回調査では、穂いもちの発病穗率は0%、被害率は0%でした。（県平均発病穗率0.01%、被害率0.00%）

(4) イネドロオイムシ

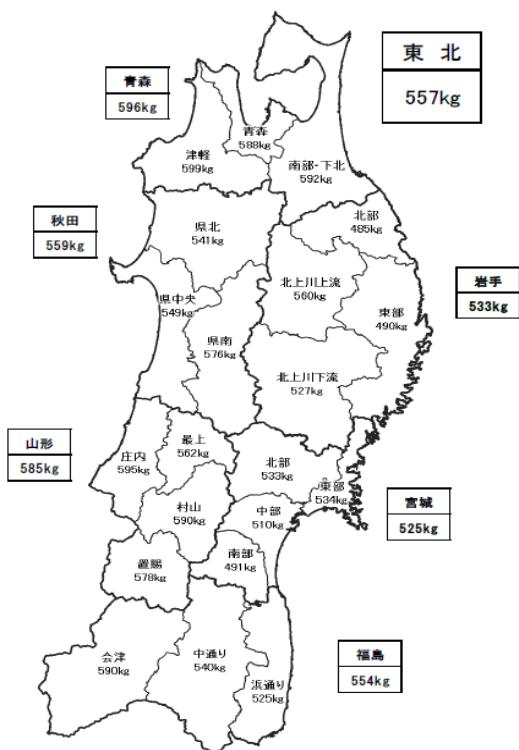
- ・6月中旬の巡回調査では、イネドロオイムシの被害度は0.9（県平均0.1）、6月下旬の巡回調査では3.3（県平均1.2）でした。前年の調査結果では、6月中旬の被害度は0.6（県平均0.3）、6月下旬の被害度は2.0（県平均0.4）となっており、前年よりもやや多くなりました。

(5) 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

- ・7月中旬の巡回調査では、水田周辺草地におけるカスミカメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、フタトゲムギカスミカメ等）の1地点あたりのすくい取り虫数は多い地点では110頭でした（県平均39.9頭）。前年同時期の調査結果では、1地点あたりのすくい取り虫数は多い地点で140頭（県平均120.8頭）と前年よりも少なくなりました。
- ・7月下旬の巡回調査では、本田内におけるカスミカメムシ類の1地点あたりのすくい取り虫数は0頭（県平均4.3頭）でした。
- ・出穂期の巡回調査では、本田内におけるカスミカメムシ類の1地点あたりのすくい取り虫数は5.0頭（県平均11.1頭）でした。

4 令和7年産水稻の作柄概況（東北地方）

図4 県・作柄表示地帯別10a当たり収量
(生産者が使用しているふるい目幅ベース)



注：10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、県ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値であり、ふるい目幅は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県及び山形県1.90mm、福島県は1.85mmである。

東北農政局 令和7年12月12日公表

【結果】

東北地方の水稻の10a当たり収量は557kg（前年産に比べ1kg増加）となった。

全もみ数が、田植後の低温により宮城県では少なく、青森県及び岩手県ではやや少ないとなったものの、その他の県では、田植期以降おおむね天候に恵まれ前年並みとなったことに加え、千もみ当たり収量（もみの肥大、充実）が、各県ともおおむね天候に恵まれ前年並み以上となったためである。

5 1等米比率と品質を左右した要因

1等米比率と落等要因（倉庫検査+カントリーエレベーター、うるち米）

(11月末現在)

支店名	JAみやぎ登米米									JA南三陸	R7	R6	
	迫	とよま	豊里	石越	南方	米山	なかだ	東和	計				
1等米比率 (%)	95.7	96.7	98.1	91.4	97.7	96.9	95.3	79.4	95.4	98.0	95.4	92.4	
格下理由	着色粒	カメムシ・その他	1.5	1.0	1.2	6.0	0.4	1.3	2.0	18.2	2.4	2.0	2.4
	形質	充実度不足	1.7	0.3	0.6	0.4	1.6	0.8	1.8	0.1	1.2	0.0	1.2
		心白・腹白	0.5	0.6	0.0	0.7	0.2	0.5	0.2	0.3	0.3	0.0	0.3
	被害粒	胴割粒・発芽粒	0.5	0.8	0.0	1.3	0.1	0.4	0.6	2.1	0.5	0.0	0.5
		異種穀粒・もみ混入	0.1	0.6	0.1	0.1	0.0	0.1	0.2	0.0	0.1	0.0	0.2

*1等米比率は倉庫検査+カントリーエレベーター。

*格下理由は倉庫検査の格下数量割合から算出。

*充実度不足：形質的に扁平、縦溝が深い、果皮が厚い、光沢がない、肌ずれ、薄い茶米、軽い奇形、未熟粒等が

1等米より多く認められるが、それ単独では格下げ理由に当てはまらず、総合的に判断して1等米に該当しないもの
※異種穀粒：もみ混入、もち玄米混入（うるち）、精米混入等

(1) 1等米比率

- 管内の1等米比率は95.4%（11月末現在）となっています。
- 落等要因は、第1位は着色粒で、続いて充実度不足が多くなりました。

(2) 品質を左右した要因

○着色粒の発生

- 高温の影響から各世代の斑点米カメムシ類の発生が早まり、防除タイミングがずれたことが考えられます。

6 調査ほの収量調査結果

(1) 移植栽培 収量・品質調査結果

【水稻生育調査結果(移植)】

No.	品種	栽培タイプ	調査地点		出穂期	成熟期	収量調査(1.9mm以上)					倒伏程度(%)	
							m ² 当たり 穂数 (本/m ²)	1穂粒数 (粒)	m ² 当粒数 (千粒/m ²)	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)		
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	前年比・差 平年比・差	8月8日 +2日 +3日	9月15日 +1日 +1日	470 100% 105%	73.0 87% 102%	34.3 88% 107%	76.7 111% 91%	22.1 99% 99%	582 96% 98%	0
2	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	前年比・差 平年比・差	8月3日 +2日 -1日	9月10日 +3日 -1日	363 78% 82%	88.4 115% 120%	32.0 90% 98%	77.4 99% 97%	22.9 100% 101%	568 89% 97%	0
3	ササニシキ	Cタイプ (復活ササニシキ)	豊里町	前年比・差 平年比・差	7月31日 -3日 -2日	9月11日 +4日 ±0日	319 88% 87%	74.8 91% 89%	23.8 81% 77%	94.6 109% 111%	22.4 101% 103%	506 89% 89%	0
4	つや姫	Cタイプ	追町	前年比・差 平年比・差	8月4日 +4日 —	9月18日 -2日 —	385 92%	85.7 115%	33.0 105%	78.4 90%	22.3 99%	576 93%	0
5	だて正夢	—	追町	前年比・差 平年比・差	8月1日 -3日 -4日	9月11日 -5日 -7日	443 117% 110%	81.0 96% 92%	35.9 112% 101%	79.5 86% 100%	20.8 98% 100%	593 95% 102%	6
6	つきあかり	—	豊里町	前年比・差 平年比・差	7月23日 ±0日 —	9月4日 ±0日 —	290 96%	119.0 122%	34.5 117%	44.8 54%	24.1 101%	373 64%	0
参考	5/10植 ひとめぼれ	古試		前年比・差 平年比・差	7月28日 -4日 -6日	9月4日 -2日 -10日	436 83% 88%	66.2 103% 100%	29.8 86% 88%	86.7 119% 111%	22.8 99% 100%	588 101% 98%	—
	5/20植 ひとめぼれ			前年比・差 平年比・差	8月2日 -2日 -5日	9月8日 -1日 -10日	482 101% 98%	72.1 93% 97%	32.5 94% 95%	84.6 118% 111%	22.5 98% 99%	619 109% 104%	—

※栽培タイプ

Cタイプ：農薬・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減；農薬8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年（令和2年～令和6年）の平均値。

ただし、つや姫、つきあかりは調査2年目のため、前年差のみ記載。

※参考に記載の古川農業試験場作況試験のデータの穂数について坪刈り穂数を使用。その他については出穂後25日調査を使用。

ひとめぼれ(2ほ場平均) 平年比

- m²当たり穂数→ やや少ない (96%)
- m²当たり粒数→ やや多い (103%)
- 玄米千粒重 → 並み (100%)

- 一穂粒数→ 多い (109%)
- 登熟歩合→ やや低い (95%)
- 精玄米重→ やや少ない (98%)

ササニシキ 平年比

- m²当たり穂数→ 少ない (87%)
- m²当たり粒数→ 少ない (77%)
- 玄米千粒重 → やや重い (103%)

- 一穂粒数→ 少ない (89%)
- 登熟歩合→ 高い (111%)
- 精玄米重→ 少ない (89%)

だて正夢 平年比

- m²当たり穂数→ 多い (110%)
- m²当たり粒数→ やや多い (101%)
- 玄米千粒重 → 並 (100%)

- 一穂粒数→ 少ない (92%)
- 登熟歩合→ 並 (100%)
- 精玄米重→ やや多い (102%)

【水稻品質調査結果(移植)】

No.	品種	栽培タイプ	調査 地點		玄米 (1.9mm以上)							
					整粒比 (%)	胴割粒比 (%)	白未熟粒比 (%)	青未熟粒比 (%)	その他 未熟粒比(%)	着色粒比 (%)	死米粒比 (%)	被害粒比 (%)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	前年値 前々年値	74.9 67.3 44.0	0.5 0.2 3.1	2.4 8.2 15.5	2.0 1.0 0.4	20.0 22.5 34.3	0.1 0.2 0.4	0.1 0.5 1.4	0.1 0.2 0.8
2	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	前年値 前々年値	77.3 70.1 45.9	0.2 0.2 3.6	2.0 5.5 17.5	2.6 1.5 0.1	17.7 22.4 31.0	0.1 0.1 0.1	0.0 0.2 0.9	0.1 0.1 0.9
3	ササニシキ (復活ササニシキ)	Cタイプ	豊里町	前年値 前々年値	80.5 59.6 49.0	0.9 3.6 3.7	1.9 7.2 31.3	1.5 1.3 0.0	15.0 27.8 10.6	0.0 0.0 0.0	0.0 0.3 3.4	0.0 0.1 1.9
4	つや姫	Cタイプ	迫町	前年値 前々年値	80.5 70.2 —	0.5 1.1 —	3.3 3.6 —	0.4 0.1 —	15.2 24.8 —	0.1 0.1 —	0.0 0.1 —	0.0 0.0 —
5	だて正夢	—	迫町	前年値 前々年値	58.4 14.9 0.4	0.0 0.0 0.0	5.8 21.1 69.0	2.9 0.1 0.0	32.4 62.8 10.6	0.0 0.1 0.2	0.0 0.2 14.1	0.4 0.8 5.7
6	つきあかり	—	豊里町	前年値 前々年値	60.2 73.0	0.1 0.1	6.4 16.7	0.1 0.1	27.1 8.5	5.0 0.1	0.9 0.3	0.3 1.4
参考	5/10植 ひとめぼれ	—	古試	前年値 前々年値	69.4 — —	0.2 — —	4.8 — —	5.7 — —	19.4 — —	0.1 — —	0.1 — —	0.5 — —
	5/20植 ひとめぼれ	—		前年値 前々年値	71.8 — —	0.1 — —	3.9 — —	4.6 — —	19.3 — —	0.1 — —	0.0 — —	0.3 — —

※SATAKE社RQI-100Bで測定。

※栽培タイプ Cタイプ：農薬・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減；農薬8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※千粒調査

※白未熟粒は、乳白粒、基部未熟粒、腹白未熟粒の合計

※だて正夢は低アミロースのため、白未熟粒、その他未熟粒とカウントされた玄米が多かったと推測される。

◇ひとめぼれ (2 ほ場平均)

- ・m²当たり粒数は平年よりやや多く、千粒重は平年並となりましたが、登熟歩合が平年をやや下回ったことから、精玄米重は僅かに平年を下回りました。
- ・白未熟粒比、その他未熟粒比は前年より少くなり、整粒比は高くなりました。

◇ササニシキ

- ・千粒重は平年よりやや重く、登熟歩合は平年を上回りましたが、m²当たり粒数は平年より少なくなったことから、精玄米重は平年を下回りました。
- ・白未熟粒比、その他未熟粒比は前年より少くなり、整粒比は前年を大幅に上回りました。

◇つや姫

- ・m²当たり粒数は前年を上回りましたが、千粒重は前年よりやや軽く、登熟歩合は前年より低くなかったことから、精玄米重は前年を下回りました。
- ・その他未熟粒比は前年より少くなり、整粒比は前年より高になりました。

◇だて正夢

- ・m²当たり粒数は平年よりやや多く、千粒重、登熟歩合は平年並となったことから、精玄米重は僅かに平年を上回りました。

◇つきあかり

- ・m²当たり粒数は前年より多くなりましたが、内穎褐変病や斑点米カメムシ類の影響からその他未熟粒や着色粒が多くなり、整粒比は前年より低くなりました。
- ・なお、不稔米多発のため、坪刈収量は373kg/10aにとどまりました。

参考 ひとめぼれ収量構成要素目標(移植)	
m ² 当たり穂数	410~460本
1穂粒数	60~70粒
m ² 当たり粒数	28~30千粒
登熟歩合	85~90%
玄米千粒重	22.3g
10a当たり収量	550kg

収量は1.9mm以上の玄米

※「宮城県稻作指導指針基本編(平成31年3月)」から

参考 つや姫収量構成要素目標(移植)	
m ² 当たり穂数	400~440本
1穂粒数	73~75粒
m ² 当たり粒数	30~33千粒
登熟歩合	75~80%
玄米千粒重	22.0g
10a当たり収量	510~540kg

収量は1.9mm以上の玄米

※「宮城県稻作指導指針基本編(平成31年3月)」から

参考 ササニシキ収量構成要素目標(移植)	
m ² 当たり穂数	480~510本
1穂粒数	54~64粒
m ² 当たり粒数	28~30千粒
登熟歩合	80~85%
玄米千粒重	21.4g
10a当たり収量	540kg

収量は1.9mm以上の玄米

※「宮城県稻作指導指針基本編(平成31年3月)」から

参考 つきあかり収量構成要素目標(移植)	
m ² 当たり穂数	310~350本
1穂粒数	90~100粒
m ² 当たり粒数	30~34千粒
登熟歩合	80~90%
玄米千粒重	23.5~24.5g
10a当たり収量	630~660kg

収量は1.9mm以上の玄米

※農研機構「つきあかり」栽培マニュアル(平成31年3月)」から

(2) 乾田直播栽培 収量・品質調査結果

【水稻生育調査結果(乾田直播)】

No.	品種	栽培タイプ	調査地点	播種月日		出穂期	成熟期	収量調査(1.9mm以上)					倒伏程度(%)	
								m ² 当たり穂数(本/m ²)	1穂粒数(粒)	m ² 当たり粒数(千粒/m ²)	登熟歩合(%)	玄米千粒重(g)	精玄米重(kg/10a)	
1	ササニシキ	フタウ耕 グレードリル 体系	米山町	4月26日	前年比・差 平年比・差	8月6日 +3日 ±0日	9月14日 ±0日 -7日	362.2 90% 91%	90.5 92% 90%	32.8 83% 81%	83.7 106% 107%	22.5 100% 103%	618.7 88% 90%	0

※ササニシキは調査5年目のため過去4か年の平均値を使用。

ササニシキ 平年比

- m²当たり穂数→ 少ない(91%)
- m²当たり粒数→ 少ない(81%)
- 玄米千粒重 → やや重い(103%)

- 一穂粒数→ 少ない(90%)
- 登熟歩合→ 高い(107%)
- 精玄米重→ 少ない(90%)

【水稻品質調査結果(乾田直播)】

No.	品種	栽培タイプ	調査地点		玄米(1.9mm以上)								被害粒比(%)
					整粒比(%)	胴割粒比(%)	白未熟粒比(%)	青未熟粒比(%)	その他未熟粒比(%)	着色粒比(%)	死米粒比(%)	腹白未熟粒比(%)	
1	ササニシキ	フタウ耕 グレードリル 体系	米山町	前年値 前々年値	79.2 75.6 53.8	0.2 0.7 1.3	1.5 11.6 27.1	2.9 0.7 0.2	15.6 9.5 15.3	0.2 0.1 0.0	0.1 0.3 0.8	0.3 1.8 1.6	

※SATAKE社RG120Aで測定

※千粒調査

※白未熟粒は、乳白粒、基部未熟粒、腹白未熟粒の合計

- ・千粒重は平年よりやや重く、登熟歩合は平年を上回ったものの、m²当たり粒数は平年より少なく精玄米重は平年を下回りました。
- ・白未熟粒比は前年より少くなり、整粒比は高くなりました。

7 令和8年産に向けての対策

(1) 土づくりと適正施肥

堆肥や土づくり肥料（ようりんやケイカル等）を施用し、地力を高め、稻体や根の活動を高めましょう。生育状況に合った施肥を行い、穂揃期まで葉色を維持しましょう。

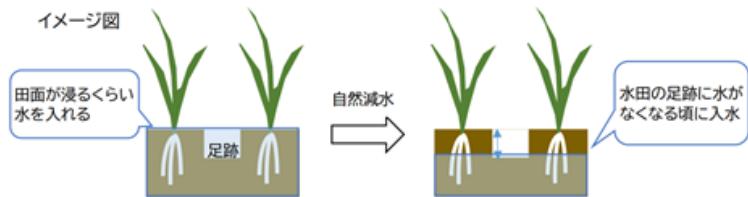
(2) 適切な移植時期による品質向上及びリスク分散

移植を適切な時期（田植え目安：5月15～25日）に行うことで出穂期を早くならないようにし、高温登熟および障害不穏の回避を図りましょう。田植えを遅らせる場合は、播種時期を遅くする必要があります。また、直播栽培も出穂期を遅らせるのに有効です。

(3) 適正な肥培管理・水管理の徹底

安定した品質を確保できるよう適正粒数（ひとめぼれで2.8～3万粒/m²）を目標に、ほ場に合った施肥や栽植密度、植付本数を設定しましょう。

高温時の出穂後の水管理として、飽水管理（田面が浸るくらいに水を入れる管理）が効果的です。地温の上昇を抑制し、白未熟粒や胴割粒の発生を抑制しましょう。



(4) 病害虫の防除対策は予防が最も重要です!!

1) ばか苗病

近年、催芽・出芽時の気温が高くなりやすく、罹病苗が散見されます。温湯消毒後の種粒の再汚染を防止するため、種粒の保管場所や状況、催芽・出芽時の温度管理を再確認しましょう。生物農薬による種子消毒も効果的です。

2) 紋枯病

高温多湿の影響により、発病ほ場および上位葉鞘まで進展したほ場が増加しています。発病ほ場の増加により、年々ほ場内の菌核の密度は高まっています。減収率5%を許容水準とすると、要防除水準は穂ばらみ期の発病株率が中生品種で15%程度、晚生品種で20%程度です。必要があればJA等に相談し、防除を行いましょう。

3) 斑点米カムシ類

地域一斉の草刈りや広域一斉防除は斑点米カムシ類の防除に効果的です。

ほ場内のヒエやイヌホタルイなどの雑草は、斑点米カムシ類をほ場に呼び寄せる原因となるため、除草は確実に行いましょう。令和7年度に残草が多かったほ場では、一般米栽培に戻し体系処理による除草を行うことも検討しましょう。アカスジカスミカメの密度低下の一つの方法として、越冬世代の餌となるイネ科植物がある場所を春に草刈り、除草剤散布、畦塗りすることも有効です。

高温の影響によりホソハリカムシやクモヘリカムシ等の大型の斑点米カムシ類の増加やカムシ類の各世代の発生盛期の前進が見られるので注意しましょう。

(5) 適期収穫

「ひとめぼれ」「ササニシキ」の収穫期の目安は出穂後の積算平均気温1,000°Cとなった頃です。積算平均気温とあわせて、粒の熟色、粒水分等から総合的に判断し、適期刈取りに努めましょう。